

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500802		
法人名	社会福祉法人天寿園会		
事業所名	天寿園グループホーム		
所在地	〒039-2742 青森県上北郡七戸町舟場向川久保308		
自己評価作成日	平成25年 9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理事長が医師であるため、健康面での対応がスムーズであり安心した暮らしを提供。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地にも程近い田園地帯に位置しており、季節の移ろいを身近に感じることが出来る環境にある。特別養護老人ホームやデイサービスセンター等が併設されており、行事参加や防災訓練、栄養士や看護職員との協同など、法人内での連携が図れている。法人で町からの数多くの事業を受託しており、併設の生活支援センターの地域交流スペースで開催している「ほのぼの教室」(介護予防教室)には利用者も参加している。また、町から派遣される介護相談員を毎月1回受け入れており、すべての利用者からの要望を個別に聞き取り、それを運営やケアに活かしている。法人全体で感染対策にも取り組んでおり、天井に空気清浄剤を設置している。利用者の要望等はその日のうちに話し合うことをモットーとし、事業所の会議は週1回のペースで開催されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなの為に」という法人理念がある。園内研修や週に一度の会議で理念を確認しあい共有すると共に、実践につなげていけるようにしている。	法人の理念に基づき「笑顔で楽しく」という年度目標をスタッフの話し合いのもとに決定し、2ユニット共通で掲げ、ユニットを繋ぐ廊下の壁に掲示されている。週1回の会議時に確認し、スタッフの笑顔が家族の安心に繋がるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の行事へ参加して頂いたり、地域の行事へ参加させてもらい交流を深めていくようにしている。	運動会、夏祭り、敬老会、クリスマス会、などの法人行事に参加し、回覧板を通して地域住民にも周知して参加を促し、交流を図っている。保育園児との芋植えや芋掘り、町の秋祭りや近隣の小学校行事にも招待され参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた際や利用者様の家族など、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催後は、会議の中で参加者からの意見など報告し、サービスの向上に努めている。	町内会長や家族代表、自治体関係者等の参加を得て定期的に会議を開催している。事故報告や入居状況の報告の他、外部評価、自己評価内容や結果を報告している。参加者から会議後の会議録を回覧することで、内容のスタッフへの周知を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は密に取れている。	介護認定の更新手続きを通して連携を図っている。感染の流行等の留意事項について情報が入る他、困難事例等の相談も行なっている。町直轄の地域包括支援センターと協同で認知症サポーター養成講座にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内研修にて勉強会を開いている。また、職員同士で声掛けや態度についても、お互いに注意しあえる雰囲気や関係を築き防止に努めている。	事業所の研修会でも取り上げ、周知を図っている。併設の特別養護老人ホームと廊下で繋がっているが、施錠等はせず、併設事業所の協力も得て見守る体制が出来ている。これまでに身体拘束を行なった事例はないが、必要時には家族とも十分話し合い、記録を残す体制がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修にて勉強会を開いている。また、職員同士で声掛けや態度についても、お互いに注意しあえる雰囲気や関係を築き防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修にて勉強会を開いている。また、在宅支援センターと密に情報を共有し、必要時には活用できる体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と本人とは、十分に話し合いを持ち理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書へ苦情相談窓口を明記している。また、面会時家族より聞かれた苦情や意見に対しては、毎日の申し送りや申し送りノート、毎週の会議で話し合い取り組んでいる。	意見箱やFAXでも受付する体制はあるが、実際には面会時等に直接話を受けることが多い。設備について家族から要望を受け、対応した事例もある。町の介護相談員の派遣も月に1回受け入れ、利用者と1対1で要望を聞き、家族との定期的な面会を望んだ利用者について、要望を叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週のケア会議の中で、報告や意見交換を行っている。また、週一回の各セクション代表の会議で意見を出し合い対応している。	週1回開催の事業所の会議には管理者が出席し、直接スタッフの意見を聞いている。利用者のケア等について意見を出し合っている。法人の各事業所の代表が集まる会議には計画作成担当者が出席し、情報の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう定期的に面談を行い、本人との話し合い等で職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保はできている。また、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上北地方老人福祉協議会主催の行事や研修などを通して、交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に安心して頂けるように話に耳を傾け、安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して利用できるよう耳を傾けている。また、在宅介護支援センター等により情報収集を行い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービス開始に向けて本人、家族を主にケアマネージャーや医師と連携を図り支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、日々教わるものがたくさんある。季節ごとの慣わし等を教わり、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や広報を活用し、日々の様子を伝えたり、面会時に報告を行っている。また、家族より昔の様子を聞き、話し合い本人にとって一番いい支援ができるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所への外出、地域行事への参加、広報等で関係維持に努めている。	長年通っている理容店の利用や買い物などの個別の要望にもその都度対応している。昔馴染みの人の面会や併設事業所を利用している利用者にも会いに行けるよう支援している。家族の協力を得て、外泊や外出等も勤めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話をさりげなく聞き、誤解を招きそうになる前に職員が自然に会話に入り、利用者同士の関係が良好に保てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係の維持に努めている。本人、家族、関係機関と連絡を取り合い、その後のサービス利用開始に向けて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、何を望んでいるのかを会話の中で聞き出したり感じ取りながら、介護計画を作成し取り組んでいる。また、家族と話し合いを持ちながら検討している。	センター方式を活用しアセスメントを行なっている。家族からも意見聴取している。	本人の意向の把握について、言葉で意見を表出できない方の意向についても計画書に明記できるよう、把握に努めることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係ケアマネジャーより情報を聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや申し送りノート、毎週の会議において情報を共有し現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き取り、それを基に毎週の会議で話し合い介護計画を毎月作成している。状態に変化が生じた場合や新たな気づきがあった場合は、都度話し合い現状に即した介護計画を作成している。	週に1度の会議で普段の状況について意見交換し、月に1度担当スタッフが計画書を作成している。家族から意見等あった際は申し送りノートに記載し、情報共有している。必要時には主治医や併設事業所の栄養士、看護職員とも話し合い、計画に反映されている。	モニタリングの詳細や家族からの要望等について、振り返りや経緯の把握が容易になるよう記録の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、申し送り、申し送りノートを活用し共有している。また、毎週の会議で変化や気づきがあった場合、話し合い介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の在宅支援センターやヘルパー事業所、デイサービスセンター、特養と毎週会議を開き連携し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的な活動支援を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意見を聞き、相談できる医療機関と関係を確保し支援している。	事業所利用前から協力医を受診していた方が多いが、本人や家族の希望する医療機関の受診もできる。基本的に家族対応だが、家族が対応できない場合はスタッフが付き添いする。協力医は週に1回の往診があり、健康面での支援を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師や、かかりつけ医の看護師との情報交換や連携を図り、いつでも相談、支援をしてもらえる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者は、どんな情報を必要としているのかという認識を持ち、情報の交換・相談を行い医療機関との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族や医師等と話し合い、体調の変化があった都度確認を行い、毎週の会議や申し送り、申し送りノートを活用し情報の共有を行っている。	これまでに事例はないが、併設事業所の看護職員の協力を得ながら希望により経管栄養や看取り対応も可能である。状況変化時には主治医から家族へ説明があり、共通理解のもとにケアが行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の園内研修を行い、緊急時や事故に備えている。また、マニュアルを作成し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に併設施設合同の訓練に参加している。また、地域住民の協力が得られる体制が整っている。災害発生時のマニュアルを作成し対応している。	年に2回、消防立会いで法人での合同の総合防災訓練が行なわれる他、事業所独自に月に1回、避難訓練を行っている。非常時には地域住民の協力が得られる体制のほか、併設事業所との連携体制も整っている。災害時に備え、反射式ストーブや懐中電灯、3日分の食糧を法人で備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	場面に合わない行動や会話でも否定をするのではなく、傾聴し受け入れその人の誇りや尊厳を大切に支援している。	2日間の新人研修のプログラムにも取り入れ、理解を深めている。利用者の呼び方についてはそれぞれの希望に合った呼び方を取り決めている。個人台帳のファイルはキャビネットで外部の目には触れないように保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が自由に話せるように働きかけ、外出や買い物などに出かけている。また、食べたいものを聞いたりし即時対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて食事時間や場所を変えるなど、本人の希望に応じた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望や体調に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。準備や片付けを手伝っていただいたり、調理にかかわれない方にも味見をしてもらったり、五感を感じてもらえるような援助を行っている。	昼・夕食はユニット1で2ユニット分を調理し、配膳は各ユニットで行なっている。朝食は味噌汁以外は併設事業所の厨房で調理している。野菜の下ごしらえや味付けなどを利用者と共にしている。献立は併設事業所の栄養士が作成するが、希望等により柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を活用し把握している。少ない方には、好きな物を提供したり時間をずらしたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔内の清潔保持ができる方には、声掛けをし行ってもらい、できない方に対しては介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、把握を行っている。シグナルを察し、失敗を減らすようトイレでの排泄誘導を行っている。	利用者一人ひとりの24時間の行動を業務日誌に記載し、排泄パターンを把握している。便秘気味の方には下剤使用に頼りすぎず、朝一番での冷水や牛乳の摂取、腹部マッサージなどで自然排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・睡眠・運動・食事の工夫や乳製品等、排泄を促すよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の希望に応じた時間で入浴できるようにしており、併設のデイサービスの温泉にも希望に応じ利用している。	希望により19時頃まで対応可能で、ユニット2は温泉である。入浴を希望されない方には、玄関前にある足湯の活用や清拭等に対応している。併設事業所の広い浴室で気分転換を図ったり、必要時の機械浴の使用、菖蒲湯等の季節の風呂も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動し、安眠できるようにしている。また、共有空間でも一人で休憩できるように離れた場所にソファを置くなどの空間作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋の管理を行い、目的・副作用・用量の把握をしている。また、服薬できているのかという確認を行うと共に、病状の変化の観察を行っている。園内研修にて看護師より指導・助言を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日により利用者の気分も違うので、その利用者の状況に合わせて得意な仕事を行ってもらっている。また、昔の職業や趣味を再現できる機会を増やしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設と連携を図り、施設内の散歩、買い物、ドライブ、行事に参加できる環境を整えている。	新聞からイベントの情報を収集し利用者や相談しながら外出先を決めている。町内の美術館やショッピングセンターに出かけることもある。法人の畑や花壇の草取り等の作業をしている。併設事業所と合同で秋祭り見物に出かける際には家族の参加を促したり、見物場所の提供を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方に関しては任せているが、家族に定期的に確認してもらう他に職員も本人と一緒に確認を行っている。その他の方に関しては、家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族からの要望に応じ、プライバシーに配慮して行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・時間に合った音の使い方、光の使い方に注意している。また、季節に合った飾りつけを行ったり手作り作品を飾り、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	法人で実施している「ほのぼの教室」で利用者が作成した作品を装飾に利用している。リビングや居室、浴室には大きな窓があり採光も良好である。居室入り口上部には表札の代わりとなる風景等の写真のパネルを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる場所の確保と共に、一人で静かに過ごせる空間作りも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や家具を持ってきて頂けるよう家族の協力を得て、本人が心地良く過ごせるよう環境作りに配慮している。	備え付けの洗面台以外、ベッドやタンスなどはすべて持ち込みとしており、自宅で使い慣れたものを持参していただいている。写真や装飾品は本人の好みに合わせてレイアウトしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った家具、トイレの活用をしている。また、自分で移動できるようテーブル等の位置に工夫し、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		